



S コマンド

この章では、S で始まる、Cisco NX-OS ファイバチャネル、仮想ファイバチャネル、Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

san-port-channel persistent

自動作成された SAN ポート チャンネルを永続的な SAN ポート チャンネルに変換するには、**san-port-channel persistent** コマンドを使用します。

san-port-channel *port-channel-id* persistent

構文の説明

<i>port-channel-id</i>	ポート チャンネル ID を指定します。指定できる範囲は 1 ～ 128 です。
persistent	自動作成された SAN ポート チャンネルを永続的な SAN ポート チャンネルに変換します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは元に戻せません。ユーザ作成のチャンネル グループは、自動作成チャンネル グループに変換できません。**san-port-channel persistent** コマンドが、自動作成されたチャンネル グループに適用されると、チャンネル グループ番号は変更されず、メンバ ポートのプロパティはユーザ作成チャンネル グループのプロパティに変更されます。チャンネル モードはアクティブのままです。

例

次に、自動作成されたチャンネル グループのプロパティを永続的チャンネル グループに変更する例を示します。

```
switch# san-port-channel 10 persistent
```

関連コマンド

コマンド	説明
san-port-channel protocol	SAN ポート チャンネル プロトコルをイネーブルにします。
show interface port-channel	SAN ポート チャンネル インターフェイスの情報を表示します。
show port-channel	SAN ポート チャンネルの情報を表示します。

scsi-target

SCSI ターゲット ディスカバリを設定するには、**scsi-target** コマンドを使用します。SCSI ターゲット ディスカバリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
scsi-target {auto-poll [vsan vsan-id] | discovery | ns-poll [vsan vsan-id] | on-demand [vsan vsan-id]}
```

```
no scsi-target {auto-poll [vsan vsan-id] | discovery | ns-poll [vsan vsan-id] | on-demand [vsan vsan-id]}
```

構文の説明

auto-poll	SCSI ターゲット自動ポーリングをグローバルに、または VSAN ごとに設定します。
vsan <i>vsan-id</i>	(任意) VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
discovery	SCSI ターゲット ディスカバリを設定します。
ns-poll	SCSI ターゲット ネーム サーバ ポーリングをグローバルに、または VSAN ごとに設定します。
on-demand	オンデマンドの SCSI ターゲットをグローバルに、または VSAN ごとに設定します。

コマンドデフォルト

各オプションの SCSI ターゲット ディスカバリはイネーブルです。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

自動グローバル SCSI ターゲット ディスカバリは、デフォルトで有効です。ディスカバリは、オンデマンドのネーム サーバ ポーリングを使用して、または自動ポーリング オプションによって、特定の VSAN でトリガーされる場合もあります。すべてのオプションは、デフォルトで有効になっています。すべてのディスカバリ オプションを無効にするには、**no scsi-target discovery** コマンドを使用します。また、このコマンドの **no** 形式オプションを使用して、特定のオプションを無効にすることもできます。

例

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット自動ポーリング ディスカバリを設定する例を示します。

```
switch(config)# scsi-target auto-poll vsan 1
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット自動ポーリング ディスカバリを削除する例を示します。

```
switch(config)# no scsi-target auto-poll vsan 1
```

次に、SCSI ターゲット ディスカバリを設定する例を示します。

```
switch(config)# scsi-target discovery
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット NS ポーリング ディスカバリを設定する例を示します。

```
switch(config)# scsi-target ns-poll vsan 1
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット NS ポーリング ディスカバリを削除する例を示します。

```
switch(config)# no scsi-target ns-poll vsan 1
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット オンデマンド ディスカバリを設定する例を示します。

```
switch(config)# scsi-target on-demand vsan 1
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット オンデマンド ディスカバリを削除する例を示します。

```
switch(config)# no scsi-target on-demand vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
discover scsi-target	スイッチのローカルストレージ上またはファブリックを介したリモートストレージ上の SCSI ターゲットを検出します。
show scsi-target	既存の SCSI ターゲット設定情報を表示します。

shutdown

仮想ファイバ チャンネル インターフェイスまたは SAN ポート チャンネル インターフェイスのステートを管理的にダウンに変更するには、**shutdown** コマンドを使用します。インターフェイスをイネーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

shutdown [force]

no shutdown

構文の説明

force	(任意) インターフェイスの状態を管理上のダウンに強制的に変更するよう指定します。
--------------	---

コマンド デフォルト

イネーブル

コマンド モード

仮想ファイバ チャンネル インターフェイス コンフィギュレーション モード
SAN ポート チャンネル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
5.0(2)N1(1)	shutdown コマンドは、 interface vfc コマンドから分けられました。
5.1(3)N1(1)	shutdown キーワードは、 interface san-port-channel コマンドから分けられました。 (注) Cisco Nexus 5000 シリーズ で 5.1(3)N1(1) よりも前の Cisco NX-OS リリースを実行している場合、このコマンドは interface san-port-channel コマンドのキーワードでした。

使用上のガイドライン

インターフェイスをイネーブルにするには、**no shutdown** コマンドを使用します。

例

次に、仮想ファイバ チャンネル インターフェイス 3 をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# shutdown
switch(config-if)#
```

次に、仮想ファイバ チャンネル インターフェイス 3 をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# no shutdown
switch(config-if)#
```

次に、SAN ポート チャンネル インターフェイスを強制的に管理的ダウン状態にする例を示します。

```
switch# configure terminal
```

```
switch(config)# interface san-port-channel 3
switch(config-if)# shutdown force
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface san-port-channel	SAN ポート チャネル インターフェイスを設定します。
interface vfc	仮想ファイバチャネル インターフェイスを設定します。
show interface vfc	指定の VFC インターフェイス、属性、およびステータスを表示します。
show interface vfc	指定の VFC インターフェイス、属性、およびステータスを表示します。

shutdown lan (FCoE)

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) リンクでイーサネットトラフィックをシャットダウンするには、**shutdown lan** コマンドを使用します。イーサネットトラフィックを戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

shutdown lan

no shutdown lan

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

シャットダウンしません。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

インターフェイス上でイーサネットトラフィックをシャットダウンするには、このコマンドを使用します。インターフェイスが FCoE VLAN の一部である場合は、シャットダウンを実行しても、その FCoE トラフィックに影響はありません。

例

次に、FCoE リンクでイーサネットインターフェイスをシャットダウンする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# shutdown lan
switch(config-if)#
```

次に、インターフェイスをシャットダウンまたはディセーブルにした後で、インターフェイス上のトラフィックを復元する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# no shutdown lan
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcoe	FCoE パラメータを設定します。

switchport (ファイバチャネル)

ファイバチャネルでスイッチポートパラメータを設定するには、**switchport** コマンドを使用します。コンフィギュレーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport

```
{fcrxbbcredit {number [mode E | F] | default} |
mode {F | NP | SD} |
speed {1000 | 2000 | 4000 | 8000 | auto [max 2000]} |
trunk {allowed vsan {[add] vsan-id | all} | mode {auto | off | on}}}
```

```
no switchport {fcrxbbcredit| mode | speed | trunk {allowed vsan [[add] vsan-id | all] |
mode}}
```

構文の説明

fcrxbbcredit	ポートの受信 BB_credit を設定します。
<i>number</i>	受信 BB_credit を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 240 です。
mode	特定のポートモードの受信 BB_credit を設定します。
E	E または TE ポートモードに対する受信 BB_credit を設定します。
F	F ポートモードの受信 BB_credit を設定します。
default	ポートモードおよび機能に基づいてデフォルトの受信 BB_credit を設定します。
mode	ポートモードを設定します。
F	F ポートモードを設定します。
NP	N ポートプロキシモードを設定します。NP モードは、スイッチが N ポートバーチャライザ (NPV) モードで実行されている場合にのみ有効です。
SD	SD ポートモードを設定します。
speed	ポート速度を設定します。
1000	1000 Mbps の速度を設定します。
2000	2000 Mbps の速度を設定します。
4000	4000 Mbps の速度を設定します。
8000	8000 Mbps の速度を設定します。
auto	自動感知速度を設定します。
max 2000	(任意) 24 ポートおよび 48 ポートの 4 Gbps スイッチングモジュールインターフェイスの自動モードで予約されている最大帯域幅として、2 Gbps を設定します。
trunk	インターフェイスのトランキングパラメータを設定します。
allowed	インターフェイスの許可リストを指定します。
vsan	VSAN 範囲を設定します。
add	(任意) 許可 VSAN リストに VSAN ID を追加します。
<i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
all	すべての VSAN を許可 VSAN リストに追加します。
mode	トランキングモードを設定します。
auto	自動トランキングモードを設定します。
off	トランキングモードをディセーブルにします。
on	トランキングモードをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

EISL カプセル化はディセーブルです。
 デフォルトの受信データ バッファ サイズは 2112 バイトです。
 ポート モードは **auto** です。
 速度は **auto** です。
 最大自動速度は **2000** です。
 トランク モードは **on** です。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

次の形式でコマンドを入力して、インターフェイスの範囲を指定できます。

```
interface fc 1/1 - 5, fc 2/5 - 7
```

インターフェイスのポート速度によって、ポート グループのポートが使用可能な共有リソースの量が決まります。ポート グループのリソースは、帯域幅が使用されない場合でも予約されます。たとえば、インターフェイスが自動感知 (**auto**) を行うように設定されている場合、最大稼働速度が 2 Gbps でも 4 Gbps の帯域幅が予約されます。同じインターフェイスで、最大速度 2 Gbps (**auto max 2000**) の自動感知が設定される場合、2 Gbps の帯域幅だけが予約され、未使用の 2 Gbps は、ポート グループの他のインターフェイスと共有されます。

ポート モードを設定する場合は、次の注意事項に従ってください。

- 自動ポート モードおよび E ポート モードは共有レート モードでは設定できません。
- 共有ポートから専用ポートへは、速度、ポート モード、クレジットの順に設定する必要があります。
- 専用ポートから共有ポートへは、クレジット、ポート モード、速度の順に設定する必要があります。

例

次に、ファイバチャネル インターフェイスのスイッチ ポート パラメータを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/3
switch(config-if)# switchport description techdocsSample
switch(config-if)# switchport mode E
switch(config-if)# switchport trunk mode auto
switch(config-if)# switchport trunk allowed vsan all
switch(config-if)# switchport trunk allowed vsan 3
switch(config-if)# switchport trunk allowed vsan add 2
switch(config-if)# switchport fcrxbbcredit 20
```

次に、仮想ファイバチャネル インターフェイスのモードを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 2
switch(config-if)# switchport mode F
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcxbbcredit extended enable	スイッチで拡張 BB_credit をイネーブルにします。
show interface	指定したインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。

switchport (SAN ポート チャンネル)

SAN ポート チャンネル インターフェイスでスイッチ ポート パラメータを設定するには、**switchport** コマンドを使用します。コンフィギュレーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport {description line | mode {NP | auto} | speed {1000 | 2000 | 4000 | 8000 | auto}
| trunk {allowed vsan {vsan-id | add vsan-id | all} | mode {auto | on | off}}}
```

```
no switchport {description | mode | speed | trunk {allowed vsan [vsan-id | add vsan-id |
all] | mode}}
```

構文の説明

description line	インターフェイスの説明を指定します。最大 80 文字の英数字を入力できません。
mode	特定のポート モードの受信 BB_credit を設定します。
NP	SAN ポート チャンネル インターフェイスを N ポート パーチャライザ (NPV) ポートとして設定します。
auto	自動感知モードを設定します。
speed	ポート速度を設定します。
1000	1000 Mbps の速度を設定します。
2000	2000 Mbps の速度を設定します。
4000	4000 Mbps の速度を設定します。
8000	8000 Mbps の速度を設定します。
auto	自動ネゴシエーション速度を設定します。
trunk	インターフェイスのトランキング パラメータを設定します。
allowed	インターフェイスの許可リストを指定します。
vsan	VSAN 範囲を設定します。
vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
add	許可 VSAN リストに VSAN ID を追加します。
all	すべての VSAN を許可 VSAN リストに追加します。
mode	トランキング モードを設定します。
on	トランキング モードをイネーブルにします。
off	トランキング モードをディセーブルにします。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

SAN ポート チャンネル コンフィギュレーション モード

■ switchport (SAN ポート チャネル)

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
5.1(3)N1(1)	E ポートは、このリリースからドロップされました。 N ポート バーチャライザ (NPV) ポートおよび 8000 Mbps ポート速度のサポートが追加されました。 switchport キーワードは、 interface san-port-channel コマンドから分けられ、独立したコマンドとして表示されるようになりました。 (注) Cisco Nexus 5000 シリーズ で 5.1(3)N1(1) よりも前の Cisco NX-OS リリースを実行している場合、このコマンドは interface san-port-channel コマンドのキーワードでした。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、SAN ポート チャネル インターフェイスのスイッチ ポート パラメータを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface san-port-channel 3
switch(config-if)# switchport description SAN Port Channel 3 Configuration
switch(config-if)# switchport speed 2000
switch(config-if)# switchport mode NP
switch(config-if)#
```

次に、SAN ポート チャネル インターフェイスのスイッチ ポート パラメータ設定を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface san-port-channel 3
switch(config-if)# no switchport description
switch(config-if)# no switchport speed
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	指定したインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
shutdown	インターフェイスをディセーブルおよびイネーブルにします。
channel mode active (SAN ポート チャネル)	アクティブ ポート チャネル ポートとして SAN ポート チャネル インターフェイスを設定します。

switchport (仮想ファイバチャネル インターフェイス)

仮想ファイバチャネル インターフェイスのスイッチポートパラメータを設定するには、**switchport** コマンドを使用します。コンフィギュレーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport mode {E | F | NP}

no switchport mode

構文の説明

switchport mode	仮想ファイバチャネル インターフェイスのモードを指定します。
E	仮想ファイバチャネル インターフェイスを仮想 E (VE) ポートとして設定します。
F	仮想ファイバチャネル インターフェイスを F ポートとして設定します。これは、デフォルトのモードです。
NP	仮想ファイバチャネル インターフェイスを N ポート バーチャライザ (NPV) ポートとして設定します。

コマンド デフォルト

F ポート モード

コマンド モード

仮想ファイバチャネル インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
5.0(2)N1(1)	bind 、 description 、 shutdown 、および switchport コマンドは、 interface vfc コマンドから分けられました。
5.0(2)N2(1)	仮想 E (VE) ポートのサポートが追加されました。
5.0(3)N3(1)	N ポート バーチャライザ (NPV) ポートのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

仮想ファイバチャネル インターフェイスにバインドするイーサネット インターフェイスまたは EtherChannel インターフェイスは、トランク ポートである必要があります。

ローカル スイッチで vPC の唯一のメンバである場合、仮想ポート チャネル (vPC) のメンバに F ポートをバインドできます。ハードウェアの制限のため、複数の仮想ファイバチャネル インターフェイスを vPC の複数のメンバにバインドできません。ただし、F ポートは非 vPC EtherChannel にバインドすることができます。

デフォルトでは、VE ポートはトランク モードの場合、イネーブルになります。VE ポートは MAC アドレスにバインドできません。

VE 対応のポートでは Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチと SAN スイッチ間の仮想リンクの検出およびインスタンス化が可能で、これによりスイッチ上でのマルチホップ FCoE がイネーブルになります。

例

次に、仮想ファイバチャネルインターフェイス 3 で F ポートを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# switchport mode trunk
switch(config-if)# exit
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# bind interface ethernet 1/1
switch(config-if)# switchport mode F
switch(config-if)#
```

次に、仮想ファイバチャネルインターフェイス 3 で VE ポートを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# switchport mode trunk
switch(config-if)# exit
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# bind interface ethernet 1/1
switch(config-if)# switchport mode E
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface vfc	仮想ファイバチャネルインターフェイスを設定します。
show interface vfc brief	属性およびステータスなど、指定の VFC インターフェイスを表示します。
shutdown	インターフェイスをディセーブルおよびイネーブルにします。
switchport mode trunk	イーサネットインターフェイスをトランクポートとして設定します。

switchport mode trunk

トランク ポートとしてイーサネット インターフェイスを設定するには、**switchport mode trunk** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport mode trunk

no switchport mode trunk

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
5.0(2)N1(1)	スイッチポート トランク モードは、仮想ファイバ チャンネル インターフェイスではデフォルトでオンになっています。

使用上のガイドライン

イーサネット インターフェイスは、同じインターフェイス上でファイバ チャンネルとイーサネット トラフィックの両方を許可するように、トランク ポートとして設定する必要があります。



(注)

Cisco NX-OS 5.0(2)N1(1) では、スイッチポート トランク モードは、デフォルトでは仮想ファイバ チャンネル インターフェイスに対してオンになっており、設定することはできません。

例

次に、インターフェイス イーサネット 2/1 のトランク モードをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# switchport mode trunk
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface switchport	スイッチポートとして設定されているすべてのインターフェイスに関する情報を表示します。

switchport ignore bit-errors

ビット エラーしきい値イベントの検出により、ファイバ チャネル インターフェイス上のインターフェイスがディセーブルになることを回避するには、**switchport ignore bit-errors** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport ignore bit-errors

no switchport ignore bit-errors

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ビット エラー レートしきい値は、パフォーマンスの低下がトラフィックに重大な影響を与える前にエラー レートの増加を検出するために、スイッチにより使用されます。

ビット エラーは次のような理由のため発生します。

- ケーブル故障または不良
- SFP 故障または不良
- SFP は 1 Gbps で動作するように指定されているが、2 Gbps で使用されている。
- 短距離ケーブルが長距離に使用されている、または長距離ケーブルが短距離に使用されている。
- 瞬間的な同期ずれ
- ケーブルの片端または両端の接続のゆるみ
- 片端または両端での不適切な SFP 接続

5 分間に 15 のエラー バーストが発生すると、ビット エラー レートしきい値が検出されます。デフォルトでは、しきい値に達するとスイッチはインターフェイスをディセーブルにします。**shutdown/no shutdown** コマンドを順番に入力すると、インターフェイスを再度イネーブルにできます。

switchport ignore bit-errors コマンドが設定されているかどうかに関係なく、ビット エラーしきい値 イベントが検出されると、スイッチで **syslog** メッセージが生成されます。

例

次に、ビット エラー イベント検出によるインターフェイスのディセーブル設定を回避する例を示します。

```
switch(config)# interface fc2/1
switch(config-if)# switchport ignore bit-errors
```

次に、ビット エラー イベント検出によってインターフェイスをディセーブルにできるようにする例を示します。

```
switch(config)# interface fc2/1  
switch(config-if)# no switchport ignore bit-errors
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイス情報を表示します。

system default switchport

ファイバ チャネル インターフェイスのポート属性を設定するには、**system default switchport** コマンドを使用します。ポート属性をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

system default switchport {shutdown | trunk mode {auto | off | on}}

no system default switchport {shutdown | trunk mode {auto | off | on}}

構文の説明

shutdown	デフォルトでスイッチ ポートをディセーブルまたはイネーブルにします。
trunk	デフォルトでトランキング パラメータを設定します。
mode	トランキング モードを設定します。
auto	自動感知トランキングをイネーブルにします。
off	トランキングをディセーブルにします。
on	トランキングをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

イネーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して設定される属性は、この時点でそれぞれを指定しなくても、今後のすべてのスイッチ ポート設定にグローバルに適用されます。

このコマンドは、次のポートの設定を管理モード F に変更します。

- ダウンしているすべてのポート
- 動作モードが F で、管理モードが F でない、動作しているすべての F ポート

このコマンドは、動作している F 以外のポートには影響しませんが、F 以外のポートがダウンしている場合、このコマンドによってポートの管理モードが変更されます。

例

次に、ポートのシャットダウンを設定する例を示します。

```
switch(config)# system default switchport shutdown
```

次に、トランク モードを設定する例を示します。

```
switch(config)# system default switchport trunk mode auto
```

関連コマンド

コマンド	説明
show system default switchport	スイッチ ポート属性のデフォルト値を表示します。
show interface brief	ファイバ チャネル ポート モードを表示します。

system default zone default-zone permit

ゾーンのデフォルト値を設定するには、**system default zone default-zone permit** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

system default zone default-zone permit

no system default zone default-zone permit

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

ゾーンのデフォルト値はありません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、すべての仮想 SAN (VSAN) のデフォルトゾーンのデフォルト値を定義します。デフォルト値は、VSAN が最初に作成されてアクティブになる際に使用されます。デフォルト値を使用しない場合、**zone default-zone permit vsan** コマンドを使用して、デフォルトゾーンの動作値を定義します。

system default zone default-zone permit コマンドは、まだ作成されていない VSAN だけで使用してください。既存の VSAN には作用しません。

VSAN 1 はデフォルト VSAN で常に存在するため、このコマンドは作用しません。

例

次に、デフォルトゾーンを設定してデフォルト値を使用する例を示します。

```
switch(config)# system default zone default-zone permit
```

次に、デフォルト設定に戻す例を示します。

```
switch(config)# no system default zone default-zone permit
```

関連コマンド

コマンド	説明
zone default-zone permit vsan	デフォルトゾーン（作成済みゾーンが割り当てられていないノード）で、その中のすべてへのアクセスが許可されるか拒否されるかを定義します。
show system default zone	デフォルトゾーンのデフォルト値を表示します。

system default zone distribute full

ゾーンセットへの配信にデフォルト値を設定するには、**system default zone distribute full** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

system default zone distribute full

no system default zone distribute full

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

アクティブなゾーンセットだけへの配信。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、デフォルトゾーンのデフォルト値をすべての仮想 SAN (VSAN) に配信します。デフォルト値は、VSAN が最初に作成されてアクティブになる際に使用されます。デフォルト値を使用しない場合は、**zoneset distribute full vsan** コマンドを使用して、デフォルトゾーンの動作値を配信します。

system default zone distribute full コマンドは、まだ作成されていない VSAN だけで使用してください。既存の VSAN には作用しません。

VSAN 1 はデフォルト VSAN で常に存在するため、このコマンドは作用しません。

例

次に、デフォルト値をゾーンセット全体に配信する例を示します。

```
switch(config)# system default zone distribute full
```

次に、デフォルト値をアクティブなゾーンセットだけに配信する例を示します。

```
switch(config)# no system default zone distribute full
```

関連コマンド

コマンド	説明
zoneset distribute full vsan	デフォルトゾーンの動作値をすべてのゾーンセットに配信します。
show system default zone	デフォルトゾーンのデフォルト値を表示します。

■ system default zone distribute full